

# 平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

- 研究機関 : 日本電信電話(株)、東北大学、NTT コミュニケーションズ(株)、富士通(株)
- 研究開発課題 : 被災地への緊急運搬及び複数接続運用が可能な移動式ICTユニットに関する研究開発
- 研究開発期間 : 平成 24 ～ 25 年度
- 代表研究責任者 : 高原 厚

■ 総合評価 : (適)

(評価点 18 点 / 25 点中)

## (総論)

当該年度における目標が概ね適切に達成されていること、および今後の実施計画も妥当であることから、引き続き本研究開発を実施すべきである。

## (コメント)

- ユーザとして想定している通信事業者、研究機関、自治体にとどまらず、警察や消防など被災現場の最前線に立つ方々もユーザと想定し、ニーズ等を汲み取ることが必要である。
- 各研究組織、各研究課題の関係性が見えやすくなるように努めて頂きたい。
- 成果報告の際には、得られた研究成果を具体的かつ簡潔に示して頂きたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

**目標は概ね適切に達成され、計画通りの成果が得られている。**

(コメント)

- 課題全体にわたり、概ね計画通りの成果が得られている。
- 前回評価時の指摘事項について十分対応がなされている。
- 平成 25 年度、平成 26 年度に実施を予定していた各課題の研究内容の一部を前倒して平成 24 年度に実施しており、タイムリーな研究成果が得られている。
- 外部ヒアリングを積極的に行っていることは評価できる。今後は、非スキルエンジニアへのヒアリングが求められる。
- 一部の研究成果については、成果の具体的な中身が説明されていない。
- 既存技術に対する優位性が具体的に説明されていない研究成果がある (例えば課題ウ)。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

**特段の問題点はなく、予定通り適切に研究資金を使用したと認められる。**

(コメント)

- 研究期間の短縮に伴う変更も含めて適切に使用されている。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

特段の問題点はなく、適切な研究開発実施計画がたてられていると認められる。また、研究開発の前倒し、関連する研究開発項目の整理・連携といった、工程管理にも工夫が認められる。

(コメント)

- 研究期間の短縮に伴い、研究開発実施計画が全体的に前倒しされており、その結果としてタイムリーな研究成果が得られるように工夫されている。
- 関連する研究開発項目である、課題ア-2-1(1)、課題ア-2-3(1)については、その中身が整理・連携されている。しかしながら、この他にも関連する研究開発課題が存在するため(例えば、採択評価検討会の際の提案書においては、課題ア-2-1(2)、課題イ-1-1で、トラヒックの優先制御に関する検討が異なる機関から提案されている)更なる整理・連携が必要である。
- 引き続き研究開発を実施するにあたり、特に、ICT リソースの相互接続、および、運用の簡単化の実現に向けた取り組みを期待する。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

特段の問題点はなく、適切な予算計画であると認められる。

(コメント)

- 研究期間の短縮に伴う変更も含めて適切に計画されている。
- 予算執行において、特にPD 研究員の積極的な雇用に配慮されることを期待する。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 3点

(総論)

**引き続き、産学連携で適切な実施体制が整っていると認められる。**

(コメント)

- 各課題が独立している印象があるが、約1.5カ月に1回のミーティングによって連携が深められるように配慮されている。
- 最終年度においては、より密接な連携を取りながら研究開発を進めて頂きたい。
- 特に組織の異なる研究者同士の密な連携に配慮されることを期待する。